



和敬塾メールマガジン第101号



2025年6月4日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第101号をお送り致します。

なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

恒例の「山ノ手一周ハイキング」が開催されました！

健康志向の一環からウォーキングが見直されていて、最近は山手線一周を回るウォーキングが流行っています。大手の旅行代理店が企画する1日約5時間で山手線沿線の8km 前後を歩いて東京の歴史や文化を学ぶツアー（合計10回で一周）や、日中の12時間くらいをかけて山手線一周を歩く企画がWEB上でたくさん紹介されています。

和敬塾でも山手線の内側の区域・40 km弱を歩く「山ノ手一周ハイキング（通称：山ハイ）」が 5/31（土）夜～6/1（日）早朝にかけて開催されました。5/31（土）の日中は雨が降っていたため、開催が危ぶまれましたが、夕方前には雨も止んだため、無事に開催することができました。



出発前の東寮生



僕も一緒に歩きたかったナー！
(Suica のペンギン広場にて@新宿)



出発前の西寮生



自己紹介は下でお願いネ！
(渋谷駅前の忠犬ハチ公
からのお願い)



出発前の北寮生



出発前の新南寮生

昔は全寮が一緒にスタートしていたのですが、10年程前から寮ごとに分散して出発することになり、今回も東寮が19時に出発し、以降、西寮・北寮・新南寮の順で30分間隔で出発。新南寮の塾出発は20時半となり、4寮とも翌朝の7時から9時位までに帰寮しました。

初めて参加する1年生はもちろんのこと、同じ寮に居ても中々交流できない寮生とも思い思いの会話が弾み、寮によっては先輩寮生が途中から合流するなどして、都会の夜のハイキングを楽しみました。



※写真は各寮の職員や寮生に撮ってもらいました。



<文責:佐藤一義>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は右記にお願い致します。公益財団法人 和敬塾・事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第102号



2025年7月1日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第102号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

6月28日(土)に総合防災訓練が開催されました。

東日本大震災から14年、熊本地震から9年、そして能登半島地震から1年半、いまだに当時の記憶が思い起こされます。最近は鹿児島県のトカラ列島付近で頻繁に地震が発生しています。「日頃からの地震への備え」を実施することが大切であり、大きな地震が起きた時はまずは自分の身を守る行動を取ることです。そこで6月28日(土)、和敬塾の塾生・職員対象に防災訓練が実施されました。

震度6強の大地震に襲われ、寮及び学生ホールに大きな被害が生じ、寮内から火災が発生したとの想定の下、9時30分に地震発生を知らせるサイレンが鳴り、塾生・職員が避難場所のグラウンドに集まり、寮ごとに点呼を取り安否確認をしました。避難訓練には塾生・職員合わせて参加者約40名と少なく、いかに防災訓練の重要性を知ってもらい参加者を多くするかが課題として見えてきました。

避難後は体験訓練を実施し、今回も小石川消防署老松出張所の協力を得て、消火器による初期消火訓練、並びにAEDを使った心肺蘇生訓練を、また文京区防災課の協力を得て、起震車による地震体験、煙体験ハウスを使っての火災避難訓練を行いました。

「起震車」では南海トラフ地震を想定した震度7の揺れを体験し、大きな揺れに机の下に入り身を屈めていました。「煙体験ハウス」では白煙が立ち込め一寸先が見えず、参加者は煙の恐ろしさを改めて感じていました。初期消火訓練では消火器の取り扱い方法を教わるとともに消火器の放水訓練も合わせて行いました。また消防職員の指導のもと心臓マッサージの方法とAEDの使い方を教わりました。塾生からは「心臓マッサージで胸部を圧迫すると骨が折れることもありますが、その点はどうか」、「心肺蘇生したあとどうすればよいか」などの質問があり、留学生の参加者も「心臓マッサージに加えて、人工呼吸はするべきですか」と質問をしていました。参加者全員が真剣に取り組んでいたのが印象的でした。

最後に佐々木専務より、まずは自分の身は自分で守ること、安全を確保したら共同生活をしている者同士が周りを助ける行動をすることが大切との挨拶があり、10時30分に終了しました。

<文責:三嶋直純(和敬塾常務理事)>



消火器による初期消火訓練



AEDを使った心肺蘇生訓練



起震車による地震体験



煙体験ハウスによる避難訓練

*メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第103号



2025年7月14日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第103号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

第44回台湾大学生訪日研修団が来塾し、交流会を行いました！

第44回台湾大学生訪日研修団一行が7月9日～10日にかけて来塾し、茶道研修や塾生との交流を中心とする一泊二日の研修を行いました。

この訪日研修は日本航空と日華青少年交流協会が主催し、1979年から実施しているもので、和敬塾での研修も1989年から行われてきました。すでに交流は36年も続いてきたことになります。今回は台湾での日本語スピーチコンテスト等で選ばれた9名の大学生（女性6名、男性3名）と団長・副団長による11名が来塾しました。



和敬塾本館3階ホールでの歓迎式典

9日の16時過ぎに来塾され、その後、北寮3年の手嶋君の司会のもと、本館3階にて歓迎の挨拶のほか記念品贈呈や自己紹介などの歓迎式典が行われました。

歓迎式典の後は西寮を見学してもらいました。台湾でも人気がある作家の村上春樹氏が昔西寮に住んでいたという話を台湾の人たちもよく知っていて、大変興味があったようです。ラウンジ等寮内の見学をしてもらいました。その後、村上氏が住んでいた当時の西寮はかなり前に建て替えられてしましましたので、その面影を残す旧南寮の外観を見学しました。

茶道体験



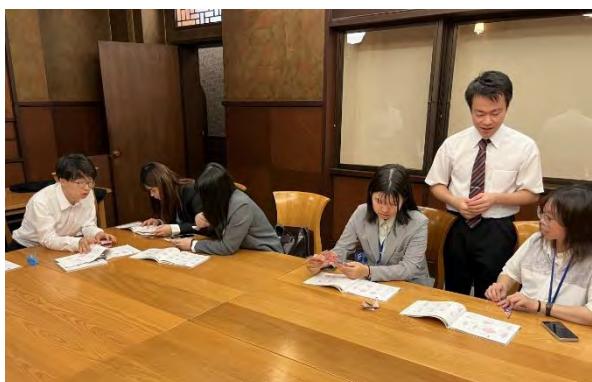
懇親パーティー

その後、団員の皆さんと塾

生の懇親会が始まりました。最初に佐々木専務理事の乾杯で幕開け。それからは団員との楽しい懇談となりました。団員は日本語スピーチコンテストの成績上位者ばかりなので、すぐに塾生と打ち解けていました。

会の途中には北寮生による「アニメソングの歌と踊り」が披露され開場は大盛り上がり。団員の皆さんもお礼にパフォーマンスをしてくれました。お互いのパフォーマンスを見て寮生

も団員も大いに盛り上がりました。寮生と団員の皆さんはずっかり仲良くなっていました。LINE の交換やスマホでの撮影もあちらこちらで。こうして 90 分の交流はあっという間に過ぎていきました。



次は新企画の「折り紙体験」です。日本の伝統文化の折り紙を塾生がお手本に折って見せると、研修団員もぎこちない手つきながら「鶴」や「ネクタイ」などを折っていました。楽しい夕べもここまでとなり、団員の皆さんには入浴時間となり、塾生は名残惜しそうに自寮に帰つて行きました。

翌朝は 7 時に食堂で朝食をとってもらい、8 時に西寮前の広場で記念撮影し、一連の和敬塾での交流会が

終了し、次の鎌倉研修に出発となりました。この鎌倉研修には和敬塾新南寮 3 年の山本君、千保君、山口君の 3 名も参加することとなり、嬉しそうにバスに乗つて行きました。



<文責:三嶋直純(常務理事)、佐々木良夫(専務理事)>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は右記にお願い致します。 公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第104号



2025年8月28日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第104号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

今年も9月1日より体育祭が始まります！

今年の夏も猛暑日の連続ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

お盆の夏休みも終わり、実家に帰っていた塾生もそれぞれの寮に帰寮し、合宿などを経て、体育祭の準備に入っております。

今年も9月1日(月)から9月14日(日)までの約2週間にわたり、毎年恒例の体育祭を開催いたします。ドッジボールから始まり、リレーやサッカー、障害物競走等15種目の競技が寮対抗で実施されます。eスポーツも種目に入っており、体を動かすのはそれほど…、という塾生も楽しめるようになっております。

以下が今年の体育祭の日程表です。(天候や会場の関係等で変更になる可能性もあります。)

2025年 和敬塾体育祭 日程表															本祭	※本祭予備日
	9/1(月)	9/2(火)	9/3(水)	9/4(木)	9/5(金)	9/6(土)	9/7(日)	9/8(月)	9/9(火)	9/10(水)	9/11(木)	9/12(金)	9/13(土)	9/14(日)		
8:00		リレー		オフ		オフ		オフ			オフ	オフ	オフ			
9:00			バスケ													
10:00	ドッジ ボール	野球		サッカー		卓球			バレー	碁石						
11:00											五人六脚					
12:00						腕相撲										
13:00			バスケ													
14:00	モルック					eスポーツ				障害物						
15:00																
16:00										縄引き						
17:00																
18:00																

本祭の騎馬戦は9/14(日)を予定しています。奮っての応援をお願い致します！

万が一、9/14(日)が雨天の場合には、9/21(日)を予備日としております。



昨年の騎馬戦終了後の写真より



和敬塾メールマガジン第105号



2025年9月17日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第105号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

体育祭は東寮が騎馬戦を制し、西寮が総合優勝を飾りました！

9月1日(月)から始まった今年の体育祭ですが、14日(日)に本祭(騎馬戦)が行われ、4寮総当たりの6試合が行われ、**東寮が3戦全勝を飾り、騎馬戦の優勝寮となりました**が、前祭まで圧倒的なトップだった**西寮が今年度体育祭の総合優勝を飾りました**。

和敬塾の騎馬戦は試合時間を決めて残った騎馬数で勝敗を決めるのではなく、大将騎の騎手(大将)を落とすまで行います。ハードな戦いになり、危険を伴いますので、夏休み前から各寮では体力づくりに精を出すと共に、フォーメーションの練習などを行い、万端の準備をして当日を迎えます。

こうした背景もあり、和敬塾の騎馬戦は当日の勝ち負けよりも、そこに至る各寮のチームワークを形成するプロセスに真骨頂があります。

今年の騎馬戦は第一試合が9時50分に始まり、17時10分に全試合が終了。昔は互いにけん制し、長い試合が多かったようですが、今回は全6試合の内、最長が30分、最短は6分という潔い戦いでした！



嵐の前の静けさ!?朝9時の和敬塾グラウンド

<第1試合:北寮 VS 西寮>



北寮の大将騎が敵陣に攻め入るも、西寮の騎馬が北寮の大将を後ろから引っ張り倒し、西寮の勝利！
第1試合:西寮の勝利（試合時間15分）

<第2試合:東寮 VS 新南寮>



新南寮の大将騎が敵陣に攻め入るも、東寮の大将は全く動ぜず
新南寮を陥落！ 第2試合:東寮の勝利（試合時間14分）

<第3試合:新南寮 VS 北寮>



両大将騎が対角線上に位置を変える展開となり、大将同士の戦いで新南寮大将を撃沈！

第3試合:北寮の勝利（試合時間12分）

<グラウンドの整備>

騎馬戦に参加する寮生は審判も含め皆裸足です。

試合の合間、誰もいないグラウンドで黙々と石拾いなどのグラウンド整備をする施設管理グループのスタッフに感謝！



<第4試合:西寮 VS 東寮>



1 勝同士の戦いとなった第 4 試合。長い戦いとなったが東寮の大将騎は一度も陣地を動くことなく(左上写真)、西寮の騎馬は少しづつ騎馬数を減らし、最後は西寮大将騎が自陣を追われ敢え無く撃沈。

第4試合:東寮の勝利 (試合時間30分)

<第 5 試合:新南寮 VS 西寮>



8騎ずつの戦いとなった第 5 試合は意外な展開だった！騎馬数が多い分、大将騎を除く騎馬同士の戦いに集中していたが、単独で陣地に居た西寮大将騎(左上写真)に新南寮 4 番騎が不意を突いて攻め込み(左下写真)、西寮の大将は敢え無く陥落！西寮大将が呆然と立ち尽くす姿が印象的だった(写真右下)。

第 5 試合:新南寮の勝利 (試合時間6分)

<第6試合:北寮 VS 東寮>



ここで北寮が勝てば、東寮と騎馬戦優勝を分かち合う場面だったが、北寮大将騎が東寮陣地に攻め入るも、東寮騎馬に阻まれ敢え無く陥落。東寮が3勝となり、騎馬戦の優勝が決まった。

第6試合:東寮の勝利(試合時間19分)



騎馬戦・勝敗表	
寮	勝敗
東寮	3勝0敗
西寮	1勝2敗
新南寮	1勝2敗
北寮	1勝2敗

<文責:佐藤一義>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は下記にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第106号



2025年9月24日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第106号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

塾友のカート・ウォルター・トン氏の旭日中綬章受章祝賀会が 和敬塾本館で開催されました！

令和7年春、塾友であるカート・ウォルター・トン氏(S63 西)が経済分野における日本・アメリカ合衆国間の協力関係の促進に寄与した功績が認められ、旭日中綬章を受章され、その祝賀会が9月16日(火)に和敬塾本館で開催されました。

<カート・ウォルター・トン氏の賞賜内容とプロフィール紹介>

氏名：カート・ウォルター・トン (Kurt Walter Tong)

賞賜：旭日中綬章

功績概要：経済分野における日本・アメリカ合衆国間の
協力関係の促進に寄与

主要経歴：

元 アジア太平洋経済協力 (APEC) 担当大使

元 国務省経済・商業局筆頭次官補代理

元 全米日米協会連合会 (NAJAS) 会長

現 THE ASIA GROUP (米戦略コンサルティング会社) マネージング・パートナー

住所(国籍)：ワシントンD.C. (アメリカ合衆国)



トン氏は留学生時代に和敬塾西寮に在籍。母国に帰国し、プリンストン大学を卒業後、米国・国務省に勤務。2011年～2014年には在日米国大使館主席公使を務められ、その間の2012年12月の和敬塾予餞会で記念講演をされ、今年の1月にはアメリカ・ワシントンで塾友会米国支部立ち上げの支部会が行われ、初代支部長に就任されています。

今回の祝賀会は同じく塾友でトン氏と懇意である下荒地修二氏(S45 南)、並びに野田光地氏(S63 西)より、この素晴らしい功績を讃え、青春時代を過ごされた和敬塾でぜひお祝いをしたいとのご提案をいただき、トン氏に近い一部の塾友と職員が集まるこぢんまりとした形で開催されました。

司会を務めたハンター・ダルトン氏(R05北)の第一声の後、最初に発起人の下荒地氏、野田氏のお二人が挨拶され、次に前米国大使の富田浩司氏(S55 南)から乾杯の挨拶がありました。

この挨拶の中で、富田氏が外務省の北米局長をされている時の米国側のカウンターパートが米国大使館主席公使を務めていたトン氏であったことが紹介されましたが、その当時はトン氏が塾友であることを知らなかったそうで、「その時、彼が塾友であることを知っていれば、もっと実りある話し合いができるていたかもしれない」との逸話が紹介されました。乾杯の後、和やかな歓談となりました。



下荒地修二氏



野田光地氏

歓談の途中、トン氏から挨拶があり、「西寮に入って最初に会ったのが寮長で、その次に会ったのが野田さんであり、その後ずっとお世話になった」との話があり、「和敬塾は非常に緩い寮で『門限に遅れたらいつも開いている窓があるので、そこから入れば良い』と寮長から説明があった」ことも明かされ、一同拍手喝采。「和敬塾で生活し友達ができたことが、外交関係の仕事に進むきっかけとなった」との話も披瀝されました。

記念品や花束の贈呈があった後、塾友会の福山会長から締めの挨拶があり、記念撮影を最後に祝賀会はお開きとなりました。

その後、奥様(丸本美加氏)と共に学生ホール 2 階に掲示してあるトン氏の色紙をご覧になり、和敬塾を後にされました。



富田浩司氏



トン氏



福山多江子氏（塾友会福山会長夫人）より花束贈呈



奥様と共に講演記念色紙の前で



<文責:佐藤一義>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は右記にお願い致します。 公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



2025年9月30日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第107号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

新南寮の寮生と職員がスポーツで大活躍！



見事な飛込を連続写真で紹介します！



銅メダルを獲得した藤田優君(新南寮3年)と佐々木康平さん

8月29日(金)～8月31日(日)、日環アリーナ栃木にて「**第101回[2025年度]日本選手権水泳競技大会 飛込競技**」が開催され、新南寮の藤田優君(早稲田大学3年)が**男子3mシンクロナイズドで第3位に入り、銅メダルを獲得しました。**今回、藤田君は同じスイミングクラブ(東京スイミングセンター)の先輩の佐々木康平さん(XLARGE所属)と共に競技に臨み、見事な成績を収めました。

このシンクロナイズド飛込は2人の選手が同時に飛込み、その演技の完成度と同調性(シンクロナイズゼーション)により順位を競うもので、2000年のシドニー大会からオリンピック正式種目となっています。

藤田君は新潟に住んでいた中学2年の時から飛込を始め、高校3年までは長岡市のクラブ(長岡ダイビングクラブ)に通ったそうで、早稲田大学に入学してからは早大水泳部・飛込競技部門に所属し、東京スイミングセンターで練習をしてきたそうです。

もともと小さい時から様々なスポーツに触れていた中、機械体操選手だった中学1年の時に、スポーツ庁主催のアスリート発掘プロジェクトに応募し、「飛込に向いている」とのことから、新潟で行われた飛込の合宿に参加したのが飛込の選手になったきっかけとのことで、今年の夏はインカレ(早大代表)や国民スポーツ大会(新潟県代表)に出場するなど大忙しだした。

*スポーツ庁主催のアスリート発掘プロジェクトに関しては以下を参照してください。

[スポーツ庁 Web 広報マガジン | 未来のオリンピック・パラリンピック選手はあなたの身近にもいる!? 「アスリート発掘プロジェクト」をレポート！](#)

<https://sports.go.jp/special/policy/japan-rising-star-project.html>



3つのメダルを獲得した加納副寮長

一方、新南寮の加納博樹副寮長(66)が、9月4日～13日までアメリカのラスベガスで開催された **2025年世界マスターズウェイトリフティング選手権大会**のM65・60 kg級で、3つのメダルを獲得し、凱旋帰国しました。

このワールドマスターズは35歳以上の5歳刻みでクラス分けされ、**加納さんは65歳～69歳のM65のクラスの60kg級に参加。スナッチで銀メダル、ジャークで金メダル、トータルで銀メダルに輝きました。**

加納さんは大学入学後にウェイトリフティングを始め、学生時代は続けたものの、社会人になってからは競技から離れていましたが、2013年から国内の競技に出場し、全日本マスターズは7回出場し、これまでに4回優勝。

世界マスターズ選手権大会には2016年からこれまでに5回参加し、2017年には優勝、2016年と2018年には2位という輝かしい成績を残しており、今回は久しぶりの世界大会での入賞となりました。

加納さんは大手生命保険会社を退職後、令和5年5月から西寮の副寮長となり、令和6年12月から新南寮の副寮長に異動されており、今回は新南寮のTシャツを着て競技に参加。表彰式では、新南寮生が書いた寄せ書き日章旗を掲げて表彰台に立ちました。



新南寮のTシャツを着て参加



新南寮生の寄せ書き日章旗で表彰台に！

*メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>

<文責:佐藤一義>



和敬塾メールマガジン第108号



2025年10月29日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第108号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

第36回塾友会ホームカミング大会が盛大に開催されました！



10/25(土)、第36回和敬塾塾友会ホームカミング大会が盛大に開催されました。全国の塾友約200名が参加しましたが、昭和30年代、40年代卒の塾友の他、若い塾友も多数参加していたのが印象的でした。

大会は11時半から大講堂で式典と講演会が開催され、13時半から学生ホール1階の食堂で懇親会が開催されました。

式典では物故者追悼、主催者挨拶(福山塾友会長、飯野HC大会実行委員長)、招待学年代表者挨拶(S50北・富永嘉文氏・元尾道市副市長)、祝辞(前川正理事長)、塾歌齊唱がありました。

福山会長からはこの1年で米国・韓国・台湾で塾友会の海外支部の設立があったことが紹介され、飯野実行委員長からは若手の参加に力を入れた旨の話がありました。

このホームカミング大会は卒塾50年目の塾友が招待されるのが恒例になっており、今年の招待学年の代表として挨拶した富永嘉文氏からはあさま山荘事件や田中角栄氏の総理就任など、ご自分が在塾されていた1970年代の思い出を紹介され、前川理事長からは和敬塾が創立70周年を迎える様々な施設保全に取り組んでいる旨の話がありました。

恒例の記念講演は広告や商業デザイン等多方面で活躍されているクリエイティブディレクターの松尾卓哉氏に「物語とタイミング」と題する講演をして戴きました。

松尾氏は飯野実行委員長と高校(福岡県立鞍手高校)の同級生で、その縁で今回の講演を引き受けられたとのこと。様々なテレビコマーシャルを手掛けられる中で不動産会社のコマーシャルの撮影で和敬塾(本館)にも来られたことがあるということでしたが、その時にはここが学生寮であるこ



福山会長



飯野実行委員長



富永嘉文氏



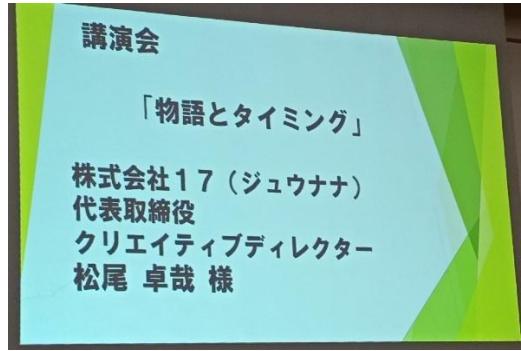
前川理事長



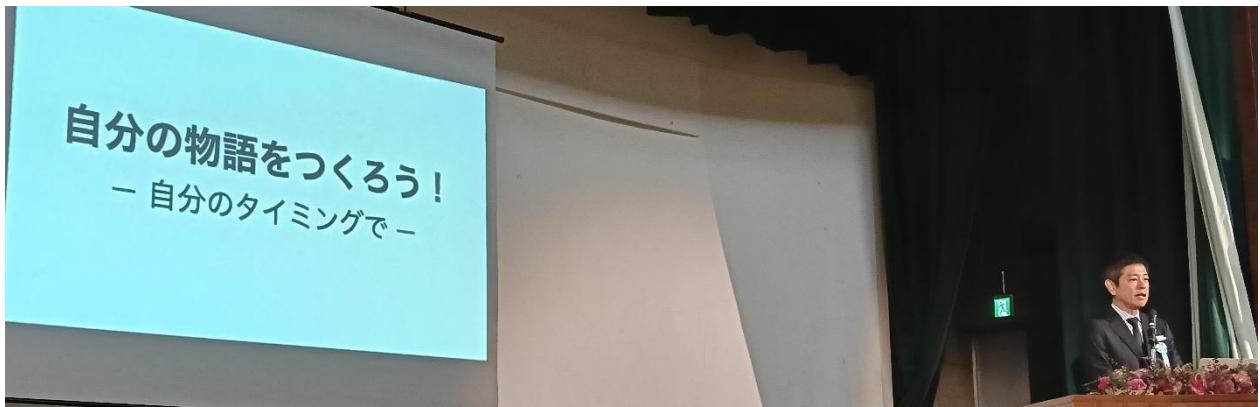
よしなり
塾歌のピアノ演奏をする笹平宜誠氏

とは聞いていたが、飯野氏が学生時代に住んでいたことは知らなかったとのことでした。

講演では「自分の物語をつくるタイミングについて」という話の中で、スティーブ・ジョブズやカーネル・サンダース、ココ・シャネル、徳川家康など世界の偉人たちは困難を乗り越えて晩年で成功している話が紹介されました。



講演を戴いた松尾卓哉氏



質疑応答の際には在塾の1年生が「自分はまだ夢を見つけられていないのですが、どうすれば夢を見つけられますか?」という質問をしたのに対し、自らの中学生時代の思い出を紹介しながら、「前向きに生きていれば色々な人が縁となり、必ず夢を見つけられるタイミングが来ます」と答えられ、その確信ある言葉に1年生も安心したように席に着きました。



この日はあいにくの雨模様で、講演会終了後は学生ホール1階の食堂で立食パーティーが開かれ、思い思いに旧交を温めっていました。

詳細な式典内容や講演内容については塾友会新聞(コリー新聞)新春号にお譲りしたいと思います。

<文責:佐藤一義>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は下記にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>